

電友会四国連合会報

第 35 号

56. 7

目 次

ごあいさつ.....	四国電気通信局副局長.....二
私 見.....	池田 清澄.....二
電友会四国連合会総会.....	三
香川電友会総会.....	四
高知県退職者の会総会.....	四
年金情報.....	四
余 栄.....	五
共済会だより(函).....	五
計 報.....	五
OBサークルだより.....	六
宇和島歴史探訪参加の記、電電OB軟式テニス春季練習会 第四回愛媛電電OB囲碁大会開催	
俳 句.....	大野 峰生.....六
短 歌.....	藤田 基孝.....六
特 集.....	近況短信.....七
奥田 敏雄 小野利喜信 角野 陳明 喜多サダ子 木下 慎一 末沢 繁男 宮川 栄 村沢 進	
随 筆.....	九
大野 正義 後藤 稔 田中 義隆 玉川 都夢 藤田 基孝 野生須賢一 山下 茂 横山 竹義 浜口 徳幸	
探梅吟行句会.....	徳島眉秋俳句会.....三
編集後記.....	三

ごあいさつ

四国電気通信局副局長

岩佐 直正



電友会の皆様、はじめまして。大変遅いごあいさつになってしまいました。二月の人事異動で副局長を命ぜられました岩佐です。

前任の阪上さん同様よろしくお願い申し上げます。

当地は初めての勤務です。勿論、何回かは出張してきましたが……。しかし、早いもので着任して以来、三か月が過ぎましたが、住んでみると四国は、山あり、海ありそして何よりも温かい人情のあるところで、これからの生活が楽しくなりそうだと、というのが現在の私のいつわらざる気持です。これから何年になるか判りませんが、ここで暮す訳ですからいつも良いこと、楽しい事ばかりとは限らないと思います。つらいときには皆様の温かい援助をお願いしなければいけないこともあるかと思ひますし、また、ときには皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと思ひます。何卒よろしくおつき合のほどお願い申し上げます。

さて、皆様に、私を知っていただくために簡単に自己紹介をさせていただきます。

私は、群馬県前橋市の生れです。上州名物

「雷と空っ風、カカア天下に屋根の石」の中で育ちました。結婚は公社入社三年目に長野の人をもらいましたが、この長野もカカア天下の気風が強いところでした、それで何となく我家もカカア天下の気味であります。今回単身赴任ですので、囲りの人からは、「大変ですね」「ご不自由でしょね」と同情されているのですが、本人の方は、誰はばかりことなく羽根を伸ばすことができそうなので、大きな声では言えませんが「幸せいっぱい？」であります。

公社入社後の主な経歴は、経理局の係長を四年間（三九年から四三年まで）のあと、茨城県の笠間電報局長を三年、その後本社の文書課調査役二年、新宿地区管理部次長二年、広報部調査役二年、厚生課長二年六か月、そして直前のポストは、営業局市場開発室調査役（一年六か月）でした。よく皆さんは、彼は「営業屋」だとか、「労務屋」だとか言いますが、私の場合、ごらんの通りでどれもうまく適合するものがありません。まあ、強いてあげれば「共通屋」ということになりましょうか。それから調査役を三回、合計六年弱ですが、やっているのも私の経歴の特徴です。以上、ごく簡単に、経歴などの紹介をいたしました。最後に私の信条を申し上げます。「初心忘るべからず」これが私の信条です。目下のところ、私は、仕事をどんな欲に吸収している段階ですが、事実を知って的確に判断をして指示をすることや、物事を大局的にとらえ方向を正確に見極めることが私の仕事の中心になるかと思ひます。そのためには、十分な調査と、慎重な判断、強力な実行力が必要であります。今後、これらのことに十分留意して、初心を忘れることなく、重大な職責

を全うすることに全力をつくしたいと思ひます。そして、皆様方のこれまでに残された数々の成果を守るとともに、なお一層の発展に向けて最大限の努力を傾注したいと思ひます。何卒、皆様方の温かいご支援のほどを重ねてお願い申し上げます、ごあいさついたします。

私 見

池 田 清 澄

四十数年の永い年月にわたり電気通信事業に従事し、停年退職して十数年の星霜が過ぎ去った。平凡ではあるが、知足無欲の心情で日々是好日、残された人生を送りたいと念じ努めてはいるが、凡人の常、喜怒哀楽に左右されることが多く、なかなかこの境地には達し難いものである。

情報社会の中で生を得た私共は、毎朝配達される新聞紙上に目を通すことからその日の生活が始動する。社会、経済、政治、外交、教育等、我々の生活に連帯した記事が紙面を埋めている。ただ現情面を知るだけでなく、その背景、原因、将来の推移等、問題意識をもって判読し私見をもつことは、余暇の消化に悩む我々閑人に課せられた努めと思ふ。

近時各分野にわたり、不正、違法、また道義的な、諸種の問題が頻出し、世情を騒がせている。

それも、指導、監督、管理の立場にある知識人が失態を起している例が多い。

その背景、根源を探究することもあながち無意味でもあるまい。

一般常識や社会通念の基準尺度に、変化があったとも思われない。が、解釈理解判断面で、その時代の考え方が変遷しているにもかかわらず、永年の慣行等に溺れ、順応性を欠いたことが一原因ではないかと思われる。

又、漫才等で流行の交通安全標語ならぬ、「赤信号みんなで渡れば恐くない」といったような、誤った風潮が世間に糜爛し、自主性を失ったのではないかと考えられる。

電電公社の事業も財政基盤は確立し、公社設立以来の二大目標も既に達成し、サービスの開発等、目覚ましい躍進の中において、一地方局とはいえ、不正経理問題が発生し、大衆から厳しい批判を受けたことは一大痛恨事であった。順境に奢らず逆境に撓まず、国民の信頼回復に一層の努力が望まれる。

我々電友会々員も元公社職員であったことを自覚し、微力ではあるが、事業の運営に対し協力を惜しまないものである。

(香川電友会会長)

電友会四国連合会総会

去る五月二十八日、第十回総会を電信電話会館「金亀の間」において、連合会役員十一名及び各県の会から選出の代議員四十名が出席し、藤田四国電気通信局長、安部愛媛電気通信部長、広末松山搬送通信部長、三好松山

電電公社 人事異動(敬称略)

五六・三・一〇

鳴門電報電話局長

梅 本 安 則

無線通信部長、青木秘書課長、六車共済会四国支部長、野本四国友愛会長のご臨席のもとに開催した。

泉会長あいさつのあと、藤田四国電気通信局長からご丁寧な祝辞をいただき、参議院議員長田裕二先生の祝電、西村尚治先生のメッセージを披露のあと、物故された方々のご冥福を祈って黙祷を捧げ、続いて愛媛県選出代議員篠浦達行氏を議長に選んで次の議案について討議を行い、いずれも原案のとおり承認または決定された。

一 昭和五十五年年度決算報告(次頁参照)

二 昭和五十五年度会計監査報告

三 会則一部改正

四 昭和五十六年度事業計画(次頁参照)

五 昭和五十六年度収支予算(次頁参照)

このあと、同館「伊予の間」において、公社主催の懇親会が催され、ご臨席の公社幹部と極めて有意義な交歓が行なわれた。この総会開催にあたり、電電公社から格別のご配慮をいただきましたことを厚くお礼申し上げます。

昭和五十六年度 事業計画

電友会四国連合会は、各県の会相互の連絡を密にし、会員の生活の安定、福祉の増進をはかり、あわせて電気通信事業に寄与せんとする会の目的達成のため、下記施策の推進をはかるものとする。

一 退職者の現況把握、公社債の消化、その他公社の要請に対し、地域における公社の良き理解者として積極的に協力し、電気通信事業に寄与する。

二 恩給・共済年金については、実質価値が維持できるよう自動スライド方式を制度化するとともに、改定実施時期についてはす

べて四月一日実施とし、現職公務員の給与改定時期から一年遅れとなっている現状を改正するよう、前年に引続き関係方面へ強力に働きかける。

三 扶助料または遺族年金の算定基準額は、恩給・共済年金額の八〇%(現行五〇%)に改善するよう陳情を続ける。

四 恩給・共済年金受給者に対する老齢福祉年金の併給制限を、全面的に撤廃するとともに、課税上の優遇措置である老齢者年金特別控除額七十八万円をさらに引上げるよう陳情を続ける。

五 生存者叙勲の範囲拡大につき引き続き電退連を通じ郵政省へ積極的に要請する。

六 電気通信共済会が行う退職者を対象とする各種文化活動等に積極的に協力する。

七 連合会会報の一層の充実をはかる。



健康メモ

夏ばてに

ならないために

七月から八月にかけては、一年中で最も暑さがきびしく、また私達にとってそれが身にこたえる季節です。

暑さがつづく、全身がだるい、疲れやすい、食欲がないなど、夏ばての症状を訴える人が多くなります。

夏ばてを防ぐには、睡眠を十分にとる、水分や冷たいものをとりすぎない、あっさりしたもののばかり食べずに栄養のバランスをとるなどに注意をしましょう。

昭和56年度収支予算
56.4.1～57.3.31

収入の部

項 目	金 額
繰 越 金	121,646
会 費	312,000
賛 助 金	520,000
会員バッジ販売金	105,000
雑 収 入	53,984
合 計	1,112,630

支出の部

項 目	金 額
分 担 金	50,000
旅 費 交 通 費	175,000
会 報 発 行 費	520,000
会員バッジ購入費	140,000
会 議 費	60,800
総会・理事会	8,000
編集委員会	52,800
事 務 費	67,000
通 信 費	35,000
用 品 費	7,000
印 刷 費	25,000
雑 費	55,000
繰 越 金	44,830
合 計	1,112,630

昭和55年度決算報告
55.4.1～56.3.31

収入の部

項 目	金 額
繰 越 金	37,213
会 費	278,000
賛 助 金	482,800
会員バッジ販売金	88,350
雑 収 入	50,000
合 計	936,363

支出の部

項 目	金 額
分 担 金	50,000
旅 費 交 通 費	96,720
会 報 発 行 費	482,800
会員バッジ購入費	85,500
会 議 費	24,480
総会・理事会	2,480
編集委員会	22,000
事 務 費	52,367
通 信 費	25,870
用 品 費	5,497
印 刷 費	21,000
雑 費	22,850
予 備 費	121,646
合 計	936,363

香川電友会総会

五十六年度春季総会は、五月十三日五月晴のもと、満開のつつじと若葉に包まれた玉藻城・披雲閣大広間において、会員二〇八名の出席のもとに開かれた。

十時三十分開会、物故会員に黙祷後、池田会長のあいさつに続いて森安明氏を議長に選出して議事に入り、五十五年度会務報告、会計報告を承認した。

なお、役員改選は現池田会長が満場一致で再選され、その他の役員も全員留任となった。小憩後、喜寿九名の方々に長寿祝金を贈って会員一同が祝意を表した。

続いて新会員の紹介、祝電披露を以て議事を終了した。

午後の懇談会は、石井通信部長のあいさつに続いて各顧問を交えてのなごやかな談笑に、のど自慢も加えての盛況であったが、再会を期して午後三時過ぎ、杉本電話局長の乾杯により散会した。

(久米)

高知県退職者の会総会

第二十回総会は四月十日十時から高知市城西館において、井上広次氏司会のもとに会員一四八名が出席して開かれた。

冒頭に長崎副会長から、会長小島謙氏が去る四月六日肺炎のため僅か一週間の入院で、高知市民病院において急逝された旨の報告があり一同哀悼に包まれた。続いて物故された会員の方々を含めて弔意の黙祷を捧げた後、副会長のあいさつ、本間通信部長の祝辞があり、次に参議院議員長田、西村両先生並びに衆議院議員大西先生の祝電が披露された。次いで、新会員の紹介を行い、喜寿、古稀

の方々に記念品を贈って祝福した。

このあと、下元三男氏を議長に選出して議事に入り、五十五年度経過報告、会計報告、同監査報告、五十六年度の事業計画、同予算案などが原案通り承認可決された。

役員改選については、長崎副会長が満場一致で会長に選任され、副会長には会長指名により大西正澄氏が、その他の役員については全員が留任し、新たに山中忠広氏が指名された。

なお、本年は、昭和三十七年会の発足以来二十周年に当り、発足当時は僅か三十七名であった会員が現在では二六〇名となり、名実共に大きな発展をなしているのを、これを記念して今秋記念行事を行うことなどを特色として、終始和気あいあいの裡に盛大に会を終えた。

年金情報

昭和五十六年度共済年金の改善については、五月十五日に、「昭和五十六年度における年金額改定法等の一部を改正する法律」が参議院を通過し、(衆議院は四月十六日通過)可決成立しました。

改善内容の概要はつぎのとおりです。

一、昭和五十五年度における国家公務員給与の改善内容の分析結果に基づき、現行年金の算定の基礎となっている仮定俸給を、四月一日から、四・二%プラス五、三〇〇円(平均四・四%)引上げる。上限額を一八八、四〇〇円とする。

現行年金額の算定の基礎となる 係給年額の区分		引上率	加算額
四、三五九、五二四円	未満のもの	一・四二%	五、〇〇〇円
四、三五九、五二四円以上 四、八七二、七八八円未満のもの		一・〇〇%	一八、四〇〇円
四、八七二、七八八円以上 以上のもの		〇・七六%	三九、六〇〇円

二、最低保障額の引上げ

年令による 区 分	最低保障額	
	昭和五十六年四月分 及び五月分	昭和五十六年六月分 以後
六五歳以上	七三三、六〇〇円	七四九、〇〇〇円
六五歳未満	五五〇、二〇〇円	五六一、八〇〇円

三、寡婦加算の引上げ（四月から実施）

六〇歳以上の妻、四八、〇〇〇円を二二〇、〇〇〇円とする。（年額）

ただし、遺族年金受給者の妻が、退職年金等とあわせて受けることとなる場合は、その退職年金が支給される間、遺族年金に加算されるべき寡婦加算の支給は停止されます。

余 栄

ご逝去されました左記の方々に對し
多年電気通信事業に貢献されましたご
功績により叙位叙勲が行われました。

正七位勲六等瑞宝章（五五・一〇・二二）

故 来田 貢 殿（坂出）

正七位勲六等瑞宝章（五五・一〇・二九）

故 西澤 徳 殿（徳島）

従六位勲五等瑞宝章（五五・一一・九）

故 鎌倉兵一 殿（高松）

従六位勲五等瑞宝章（五五・一二・二四）

故 栗林貞三郎殿（松山）

従五位勲五等瑞宝章（五六・一・八）

故 石井好明 殿（松山）

共済会だより

函

電気通信共済会四国支部

福祉相談所

◎退職者談話室（ともがき荘）開設！！

退職者の方がたが、気軽に利用できる談話室（ともがき荘）がオープンしました。ご利用ください。

記

一、場 所 松山市千舟町四丁目四一六
共栄興産ビル六階

二、開設月日 昭和五十六年五月八日

三、施設概要 八〇㎡（約二四坪）和室一五畳
その他はジュタン張りて、

碁、将棋、麻雀、生花、茶等
教養娯楽品を備えています。

四、利用時間 月～金午前十時から午後六時
土は正午から午後八時まで
（日曜、祝日は休みます）

五、その他 ご利用は無料です。
管理人がおります。

◎OB大学（園芸科）開講

四年目を迎える五十六年度最初のOB大学は
前知事久松家の庭園を觀賞しました。

三千本に余る植物の歴史、由緒等を、高齢
（八二歳）のお殿様がマイク片手に杖をつきなが

ら懸命のご説明に頭のさがる思いがしました。
珍しい植物が多く、その、一つひとつに採

取先等の立札が丹念に書かれ、植物を愛し、
造詣深いお殿様の人柄が偲ばれました。

第二回目以降の予定は、次のとおりです。

回	2	3	4	5	6
月	5	9	10	11	12
日	30	18	29	28	28
場 所	奥道後遊園地	渡部家庭園	広島植物公園	県緑化センター	番町公民館
講 座 内 容	さつき展覧会	庭園觀賞	植物園觀賞	正月盆栽のつくり方	園芸と健康について

◎趣味の作品展を開催します

退職者の方がたの文化活動の一環と併せて
ともがき荘を有効に活用していただくため、
次の要領で趣味の作品展を開催します。
皆様のご出品をお待ちしています。

記

七月、十一月 書（拓本を含む）

八月、一月 写真

九月、二月 絵画、手芸その他

十月、三月 盆栽

出品作品の搬入場所は、ともがき荘へ直接
搬入してください。

作品の撤去は夫々の月末に出品者で措置願
います。

なお、出品者には、粗品をさしあげます。

計 報

次の方が亡くなりました。謹んで哀
悼の意を表しご冥福を祈ります。

氏 名	死亡月日	行 年	所 属
山本 義和殿	56・3・9	六一	高松
高津 岩雄殿	56・3・24	六二	新居浜
小島 謙殿	56・4・6	七七	高知
高橋 清秀殿	56・5・3	七七	西条
井上 万吉殿	56・5・10	七六	松山
金丸 正雄殿	56・5・15	七四	鳴門

OBサークルだより

宇和島歴史探訪参加の記

春一番になりそうな風が吹く三月十五日、電気通信共済会四国支部主催の文化の里探訪は、参加者五十名が貸切りバスで松山から宇和島へ向かう。ガイド嬢の案内に耳を傾けているうちに、天候も安定してくる。途中の交通渋滞はなく、予定通りに宇和島市内に入ると、白木蓮がもう咲いている。

まず伊達博物館で下車、「竹に雀」の紋所・伊達家所蔵の逸品が展示され、すでに歴史中の人物になる思い。続いての名勝・天赦園は、独眼竜・伊達政宗の述懐の一節、「残軀は天の赦す所」から採って命名され、藩主の元隠居所である。藤と花菖蒲が見ものだが、今は花のない季節でやや残念。

昼食後は伊達十萬石の宇和島城（鶴島城）のある城山へ、一同元氣よく登る道に椿の花が落ちている。明治維新の四賢公の一人として活躍した八代宗城をしのび、現代の南予の中心都市を展望すると、歴史が生きてくる。最後は夏の大祭で有名な和霊神社前に停車し、しばらく自由行動。近くに豊富な性文化財で知られる多賀神社（凸凹寺）があつて、蘊蓄をふやそうとする有志も少なくない。両神社の前の須賀川べりには、午後のやわらかな日ざしがあふれ、宇和島は春である。

今回のこの企画はまことに時宜になつたもので、一同心から満足したのはいうまでもない。

（松山・T生）

電電OB軟式テニス春季練習会

桜の花も残り少なくなったが、庭球日和の堀之内松山市営コートにおいて、四月十一日（土）恒例の電電OB軟式テニス練習会を開催、十数名が参加して日頃の腕前を発揮熱戦を繰り広げた。

終って会員の古稀・喜寿該当者に記念品を贈呈、懇親会を開いてなごやかに解散した。試合結果および古稀・喜寿の人々は次のとおりである。

記

優勝 小松組 二位 大井・田内組
三位 栗田・木村組 四位 織田・溝田組
五位 吉村・玉木組
古稀 大井忍・織田鶴一
喜寿 小松重幸・横山竹義

（木村記）

第四回愛媛電電OB囲碁大会開催

去る五月三日午前十時より松山囲碁会館（二番町）で、会員二十名が参加、ゴールデンスウィークとあってか、出席者は少かつたものの、日頃の技を出し合い、熱戦の末、左記諸氏が優勝されました。

記

A組 高橋二段
B組 青野初段
C組 加藤五級

なお、同好会では同好の方の入会をお待ちしております。

（水野記）

宇和島歴史探訪参加

大野峰生（松山）

伊達博物館

名筆たりし藩主三代梅薫る

大名家の雛は諸道具多く持つ

天赦園

遠山を借景に園池水温む

城山

絨緞を展べる意に落椿

和霊神社

民のため捨身の祭神梅薫る

再び聖域に心を鍛ふ

藤田基孝（宇和島）

ひとたびは世に消へし教團疑はずづけ来りて今の吾あり

眠り足らぬ錬成道場の午前五時起床動作鈍き吾をあはれむ

風寒きこの丘を聖域と遠く来て吾らモッコをかづて走る

地下足袋をはけば心の引きしまり燃ゆる松明ささげて歩む

油しむ竹筒に焦げし芯を抜く昨夜の聖火行事の感激去らず

表紙のことば

鶴

莊野丹秀（内海）

水墨画は、和紙の独特の紙質を利用して、墨の濃淡を絵筆の運筆によって描く。何枚も描いているうちに吾ながら感心する作品のできるのも水墨画ならではの味である。

特 集

近況短信



奥 田 敏 雄 (高松)

先日、親しい友人達と徳島県の新緑の美しい美馬温泉に行った。

そこは山中の閑静できれいな温泉で、のんびりと湯に浸り心行くまで温泉情緒を満喫することができた。例にもれず酒宴になり、若かりし頃の思い出深い歌がつぎつぎに出て、年を忘れて意気まことに盛んなものであったが、それもその筈、人生七十は血氣ざかり、との信条の面々が、期せずして揃った故であった。春の叙歎を受けられた松下幸之助さんは「健康で長生きできる秘訣は、いつも仕事のことを考えることだ、これからも人生を楽しむ仕事に打ちこみたい」と言われたが、若さを保つ秘訣も、ものに打ちこむことにあるように思われ、一行は、噴き上げるような桶の若葉を仰ぎながら、松下さんにあやかって、百歳まで元気で頑張ろう、と誓い合って、山中の温泉をあとにした。

小 野 利 喜 信 (香川)

昨年香川電友会総会で喜寿のお祝いをいただいた明治生れの老骨であるが、昭和五十一年に風邪がもとで肋膜炎を患い、四か月余入院したが、高血圧になやまされ、老人の生きがいは健康が第一であり、健康づくりにはジ

ョギングが良いことをテレビで知り、即刻決意して、五十二年三月からジョギングをはじめ、大雨か大風の日以外は、定めたコースをずっと走り続けているが、昨冬の寒さにも風邪もひかず血圧も良く、食欲も旺盛で元気な毎日が続いています。また、健康保持に十アールの田圃の耕作をし、香川電友会園芸クラブにも加入して会員の皆さんとの会合を楽しんでおります。この間テレビ番組「お達者くらぶ」の放送で、ジョギングを続けている元気な老人が「喜びも悲しみも越えてただ走るのみ」と言っておられたが、全く同感で、私が五年間走り続けたことは何物にも替えられぬ試験であったと、感謝と、喜びの日々であります。

角 野 陳 明 (徳島)

公社退職後二年を経過しました。昨年六月から宗教法人生長の家徳島県教化部において生長の家地方講師として、地方の誌友会の指導、教化部で毎月行なう五日間の「神性開発練成会」の担当を、また誌友相愛会（男子信者の会）の事務局長として、喜びに満ちた毎日を送っております。

毎週一回の休みについて近くの故郷の親の許へ帰ることをたのしみにしております。

私達は若き日の同僚達が生命を賭して守護してきた日本の国体を、いま崩壊の危機から守り抜かねばなりません。占領軍によって作られた「日本国憲法」も、この三十五年間いろいろの論議をかもしていますが、当面する国防・教育等についても、日本国建国の理念に立還って考えなければならぬ時です。

「日本国憲法」がどうした経緯をもって作られたかの歴史的事実を広く国民に知らして行くべく、この運動にも立ち上っております。

喜 多 サダ子 (丸亀)

昨年四月に永年通い馴れた公社を退職してはや一年余りの月日が流れました。

健康を害して退職した私は、まだ二年や三年は勤めるつもりでいたので、主婦業に徹しきれず、体調もすぐれず、毎日イライラした生活を送っておりました。しかし早く健康を回復しなければと思い、在職中に年に二回ずつ十五kmぐらいのコースを選んでハイキングに行っていたことを思い出し、毎日歩こう、と決心し、早速実行にうつしました。私の住居は土器川のほとりで散歩には絶好のコースがあります。河川敷公園で、その中は車も通らず、景色も左手に讃岐富士、右手に丸亀城があつてのんびりとした気分にあひたることであります。時には川の小さな魚に足をとめて時間を過ごすこともあります。お陰で体重も元どおりになり、主婦業にも馴れて忙しい毎日を送っております。毎期送ってくださる電友会会報を楽しみに読みながら、松山の歩こう会の記事に目を通し、香川にも歩く同好会ができれば好いになあと思う今日この頃です。

木 下 槇 一 (高松)

光陰矢の如し、といわれるが、月日の流れは早いもので、電電公社を退職してはや一年の月日が夢のように流れてゆきました。

公社退職後、電話工事の下請会社勤めていましたが、二年前の秋、私用の作業中、高

所から転落して右足底部骨折で一か月半入院して順調に回復しましたのに、その後遺症か、大腿部の縮小感、腰痛、関節炎、肩凝り等の現象が今に残り、まだ通院しています。

私は、取りたてて言える趣味はありませんが、朝夕の野外散歩、植物観賞、小旅行、そして日頃は僅かな田圃の野菜作りや草抜きを楽しんでます。家族は、私達夫婦、娘、孫（男）の四人暮しです。今一番痛切に感じていることは、健康で長生きしたいということです。

末 沢 繁 男（坂出）

公社を退職して早くも一年が過ぎた。退職後は早期に気分転換を図りたい。そのためにはまず汗を流して体を鍛え、体力をやることであると考え、公社在職中はほとんど手をつけなかった農作業も、トラクターやコンバインの運転等もして一通りはやってみた。自然を相手に一生懸命働いて汗を流すことが如何に健康的であるかをしみじみ痛感している。

食欲は旺盛になるし、晩酌の酒も格別にうまい。昨年屋敷を少々拡張するため、与島から御影石を買い、周囲を石積みの塀にしたので、今春は妻を相手に屋敷内に松、ばべ、つげ、そのほか計五十本程の植樹をした。空間に自分の手で自由に木を植えることは楽しいものである。一方、今年の二月に経営労働協会の労働賃金コンサルタントの資格登録をしたところ、経営効率分析通信講座を受けるかコンサルタントの実績が無いと二年後には無効になるということから、講座を受けることにした。期間は二十四週間で、毎週レポート

の提出があるので頭を痛めるが、新しいことにとり組み追求していくことは人生の喜びであり、また社会勉強にもなることから目下とり組み中である。好きだったゴルフの方は最近ばかりやっておらず、もっぱらゴルフ場の会費要員となっている。しかし坂出局からコンペのお誘いがあるので、その際にはお言葉に甘えて喜んで参加させてもらっている。

このように過去一年を振り返ってみると本当に体力作りに終始したように思う。

宮 川 栄（高松）

退職者にとって無理のない旅行は老後に残された唯一の楽しみである。私は旅行が好きで、つい一か月程前にも家内と二人で、大阪、奈良方面に一週間の旅をした。三月二十七日出発、高松商高が九回裏で逆転勝ちした実況放送を新大阪から実弟宅に向う車中で耳にした。久し振りの上阪とあって、夕方から弟夫婦と千日前へ車を走らせた。弟がよく行くというサロニクに案内された。広いホールの一角で音楽を聴きながらグラスを傾け、酔う程に若い日が想い出されて胸が痛む思いがした。一時間程で外に出た時はあたりはもう暗かった。微酔機嫌で心齋橋や道頓堀を散歩したが街のたたずまいは昔と余り変わりがなく、懐かしさは一入であった。翌日奈良の娘の家に引き、西大寺、唐招提寺、薬師寺にお参りしたが、薬師寺では西塔の完成を祝う落慶法要が催されており大変な賑わいだった。元来、薬師如来は又の名を医王如来とも言い、応病与薬、抜苦与樂の仏様として古来より人々に仰がれ親しまれている。天に聳え立つ白鳳双

塔（東塔と西塔の二つあり東塔は既存のもの）、人をひきつける魅力と、これを建立した名工の偉大さに心打たれつつ薬師寺を後にした。

村 澤 進（徳島）

昨年、四十余年間勤めさせていただいた電公社を退職し、四国整備（株）徳島出張所に勤務するようになって早くも一年が経過しました。整備業務は、公社の大奥ともいえる女性の多い職場です。一昨年から樹脂ワックスによる清掃に仕様がかわり、三年目を迎えますが、今年から全局が樹脂ワックス作業になるので、各局の整備員が張り切っているところ。出張所は私だけですが、県内にはたくさんさんの整備員がいますので、連絡を密にして楽しい職場にしています。こうして働かせていただけるのも健康であるからです。長年高血圧症で薬片手に生活していましたが、数年前当時の新健康協会松山支部の会員にさせていただき、浄霊による健康管理を続けていたところ、正常な体調をとり戻し元気に勤めています。さらに熟年期を健康で楽しい毎日が送れるよう努力している今日この頃です。

電話のかけ方ポイント

ダイヤルは正しく途中休まずに！
ダイヤルは途中間をおかずに最後まで正確に回わしてください。

ダイヤルの途中で五秒以上中休みをするとう話中音がでてつながらなくなります。

随

筆



柿紅葉

大野正義(松山)

或る本にこういう言葉があった。

「アメリカの詩人・ホイットマンの詩に

女あり 二人ゆく 若きは うるわし
老いたるは なお うるわし

若い人の麗しさはいうまでもない。しかし
老いたるほうが、なお美わしいと。

若さの美しいのは説明不要です。老いの美
しいのは、肉体ではなく、「心の美」でしよ

う。それも長い人生の労苦にあい、それにう
ちひしがれず、傷つかず、そのたびごとに自
分を磨いてきた『丹精の美』だと思います。」

この点男でも同じだと思つたとき、五十年程
前、カメラに熱中して、芸術写真などと柄に
もないことをやっていた頃、カメラ雑誌の応
募作品で見た、山村の老人の顔のアップ写真
を思い出した。それは遠い山並をバックに、
自然光をたくみにハイライトに生かしたもの
で、五分刈の半白の髪と不精ひげが光って微
笑した顔は、まことに穏かで円満で仏頭のよ
うであった。その頃は知らなかった言葉であ
るが、『妙好人』というのはいんな顔をして
ござるのではなからうか。その時私も老人に
なったらこんな顔になりたいと思つたことで

あった。爾来半世紀になるが一向に修養もし
ないし、心も磨かず、塵勞にまみれてしまつ
た男の顔をぶらさげているが、諦らめてしま
つたわけでない。心ひそかな願いは持つてい
るのである。

晩年は福相持ちたし柿紅葉 峰生

釣友達

後藤 稔(大洲)

一月中旬の寒い日、菅田の理髪店がいい気
持で散髪をしていた時、「戸島の防波堤でバ
ンとメバルが面白いように釣れましたよ」と
自慢話をして帰ったら、翌日、未知の矢野さ
んが戸島での釣りの話を聞きに来られた。矢
野さんも最近釣れていないので、ぜひ案内し
てくれと頼まれ、二月二日、行くことになつ
た。

戸島は初めての矢野さんが釣ってくれるか
なあと思ひながら、戸島本浦に到着。案内す
る以上は、矢野さんに釣らしてあげたい気持
一ぱいで、二人仲よく釣糸を入れる。ジャミ
をポツリポツリまくと、早くも朝の入れぐい
になり、グレが休みなく釣れる。午後メバル
の入れぐいが続き、私の釣り果はバン十八
匹、メバル四匹、グジロ七匹、タナゴ一匹
まああの成績であった。

しばらくして矢野さんが、武田のおっちゃん
を連れて行ってほしいと言つて来て、三人
仲よく行くことにした。このときも二人とも
よく釣れ、私は完全に釣り負けだけれど、連
れてきた釣り好きな人達に喜んで貰った満足
感で、帰りの船に乗る迄のんびりと釣った。

三度目の戸島行は矢野さんと二人で、たが
いに順調に釣れ、初めて私はクーラ一杯の大
漁。帰りの日振廻りは波が高く、二人とも青
い顔して船に酔い、宇和島で下船してから待
合室で一休みして帰った。

公社退職後、知人のいない菅田の夜は淋し
かったが、よき友達がちょいちょいおいでる
ようになり、釣の話がはずむ。健康で仲よく
釣仲間として友情を深めたいと思っている。

相 性

田中義隆(松山)

相性がよいとか、わるいとかいうが、料理
の本にもよく出ている。たとえばカレイの刺
身を梅肉醤油に浸して味わうと、「さっぱり
した添え味が相性の良さを發揮」するなどと
ある。(辻嘉一氏著「味覚三昧」)

かつて職場の人間関係という言葉が流行し
た。相性がよい仲間ばかりではないから、相
性をよくする努力が必要で、それは現在でも
変わるまい。

男女の相性が暦に載っている。恋愛結婚で
は暦を見ないだらうから、離婚が多いのかも
しれない。見合いの縁談では、双方ともかな
らず調べるにちがいない。

八白亥歳の私と五寅寅歳の家内とは、むろ
ん「相性吉」と出ていて、四十数年間をとと
かく過ごしてきた。結婚したとき、幸運の翼
に乗せると約束した、と不平がましく今でも
いうが、墜落しなかっただけでも幸運ではな
いか、と思っている。

旅をするころ

玉 川 都 夢 (松山)

この頃ひとと逢って、旅のことなどに話が及ぶと、わたしはいつも、そのひとに、旅は機会があったらなるべく、『少々無理をしても出掛けるようにしたほうがいいですよ。』と言う。

若い方々はそうでもないかも知れないけれど、ことに明治生れの者だと、仕事がどうの、子供がどうの、家庭がどうのと言つて、つい出そびれるひとが多いのではなからうか。

旅をしてほんとに楽しめるには、何としても健康がいる。健康でないと、何を見ても、何をたべても、何を話しても楽しめないと思われる。体の状態を気にしながらだと、本人もだが、もし連れがあると、連れにも迷惑がかかるというものである。

どこへ行つても、道路はよくなるし、自動車は片田舎でも利用できるのだから、よほどの特殊でないかぎり、駅からタクシーで宿の玄関まで行ける。山などもかなりのところまで自動車が行く。しかし、ほんとの旅のよさは、大地をふみしめて歩いてみることに越したことはないと思う。

乗物の窓から眺める景色と、歩いて見る景色は同じものでも、どうしても立ちどまり、じつくりと眺め入るといことが、旅の楽しさの本領であらうと思う。

今どき、芭蕉の奥の細道式の旅はすべくもないのだけれど、あの気持のよいところは汲んで、心持として取り入れて、旅をする心としたいものである。

恐山と巫女

藤 田 基 孝 (宇和島)

五月の下旬というのに下北半島はまだ寒かった。半島の中央部にある宇曾利湖から流れ出る三途の川の川岸に、地獄極楽の絵で見る奪衣婆の様な巫女の老婆が白衣に輪袈裟を掛け白髪を振りながら、掌に長き数珠を擦り鳴らし、窄んだ口に経を唱えながら死霊を呼び出して居たが、暫くして巫女に乗り移ったと思われる死霊は、巫女の前に跪く中年男に向つてゆつくりとこう言つた。「私は今御佛の国で何の屈託もなく楽しく暮して居るから、あなたは私に何にも気兼ねすることなく早く故郷に帰つて上げなさい。待っている人がいるから、さあ早くお帰りなさい」。巫女の婆さんは口寄せのすんだ事を前の男に告げ、礼にもらった千円札を手提げの中へ無造作に押込み、待つて居た次の人の話を聞きはじめた。

恐山の巫女の口寄せのことは前から聞いていたが、目の前に見るのは初めてである。多くの旅行者の中に交つて物珍らし気に立って見ていた私は、何か割切れぬものを感じながら、そこを立去り、赤く塗られた橋を渡つて恐山の境内に入る。地獄へ行くにも銭が要るので入山料を払い、不毛の砂礫地帯を上つて地蔵堂に詣る。本尊は延命地蔵尊で千二百年前に円仁和尚が開基したものと伝えられる。

後に聳える釜臥山は雪を被き、吹き下す風は硫黄の臭気を籠め、地熱に爛れた熔岩と瓦礫の荒涼たる風景は、恐山の名の如く一種独特の妖気を感じる。踏めばチンチンと焼瓦の音を響かせる針の山に登り、熔けた熔岩に

縋りながら下る。貪欲な鳥は執拗に私の前を遮つて行かめず、こうした地獄谷を身も心もしどろにさまよい徘徊しつゝ、血汐が不気味に淀むような血の池地獄を巡り、賽の河原の御堂に着いた頃は脛ががくがく鳴ってひどく疲れ、地獄道のいかに厳しく恐しいものかをしみじみと感じながら、やがて宇曾利湖の広き砂浜に出た。細かき砂は砕かれしダイヤの如くキラキラと白く輝き、思わず足を止めた私は、まるで宝石でも掬う思いで一握りの砂を紙に包んだ。

青々と雪解の水をたたえた宇曾利湖は、御佛のふところの如く豊かに広く、仰げば湖越しに峙つ釜臥山が、頂の雪を西日に輝かせながら静かに私を見守っているかのように思われた。

心を鎮め思い巡らせば、恐山はまるで私の人生の縮図を見ようような気がして、神秘的な幽界から再びこの現世に逆戻りして来た心地でこの恐山を立ち去った。

なお、境内には誰でも泊れる宿坊があり、近くに何でも腹一杯食える食堂もある。

シンガポールに遊ぶ

野生須 賢 一 (高松)

退職した身はゴールデンウィークにしばらくの訳ではないが、薫風にさそわれるままにその一日を、当てもなく車を走らせた。

いまさら驚くには当たらないが祝日と言うのに国旗にお会いできなかった。報話局もその例外ではなかった。

つい先日、世界の三大港湾の国シンガポールに遊んだ。この国には地下資源も一片の農

地もないが、年中灯油もふとんも不要で、シャツ一枚でも暮らせるうえに、台風も地震もなくきらく太陽と緑がいっぱいの国でした。地の利を一層生かすため、四年の歳月をかけて海を埋めたて、大阪空港の五倍半にもあたる国際空港「チャンギー」を七月一日にオープンする。二十四時間サービスのこの空港は世界の人々が乗降し、外貨獲得の拠点になることであろう。

政府の徹底した自由化政策により、既に世界的規模の金融市場や石油プラントが稼働している。

商品も交通運賃も極めて安く、電柱もなければ網戸も不要、路上には空かんも吸殻もない。市役所も銀行もさっぱりしていて、若い国だけに複雑な規則やむずかしい様式も少ない。交通事故の処理現場を目撃したが一枚の写真も撮らない。裁判も即決らしい。

労働組合も、ストライキも遠い外国の話でその言葉さえ無い。

この国の強力な指導者李大統領夫妻のお顔は、すべての郵便局に掲げられている額で知ることができた。国民は皆平等。国民の八十パーセントは中国系で占めているが、マレーシア、インドネシアの差別は全くなく、すべてシンガポールで、仕事に就くにも人種差別がないためか、表情は皆底抜けに明るい。お世話になった姑娘に「帰国惜別」と言うのと、「ホーリー・チン・ツアライ（何日君再来）」と言葉が返ってきた。

再会を約して退去したメインストリート・オーチャードのどのビルの屋上にも、平日なのに、主権を表徴する国旗がたなびいていた。

フリック

山下 茂（佐川）

春風駘蕩として天日また麗らかなり。鳥の声につれて正午をつげるサイレンが街から聞こえてきた。『ご飯にしよう』と婆さんが鍬を置いたので、小屋から箆を持出して近くの木陰に敷いた。小屋は屋根がビニール板で葺いてあるので暑いから適当でない。頭上で梢が揺れるのか木洩れ日がチラチラ体へ落ちる。

小鳥が嘔りながら葉隠れに飛交っているらしい。弁当がすむと婆さんはすぐ畠へ出たが、自分は煙草で一服ときめこんだ。ゴロリ横になり斜め上を見ると、赤目柏の葉がいかにも面白く、風に揺れて同じ動きをせわしく繰返している。この動きをフリッカと云うが、玩具の風車もフリッカと言う。一体これはナウンかバープかなど考えながら、その動きを見つめているうちに、自己催眠に陥ちたらしい。額に触れるものがあるので目を覚したら、婆さんが懐紙で捻っているのを見て、『なにしようや』と言ったら、『メジロのウンコヨネ、寝よったら晩方までにすまんぞね、明日から会社で忙しいし、こんどの土曜から茶を摘まんなんのに、シャンシャンし』と一喝を喰い、『ヨッシャ』と畠へ出て婆さんと並列で鍬を振上げた。上の林から山鳩の声が静かに強く聞えてくる、蟬の声が騒がしい。空は高く青く、肌を撫でる風はいよいよ心地よい。晩春の屋下りである。

(日記帳から)

今日の頃

横山 竹義（松山）

第二の職場を退いて後、皆様にお目にかかるといつも「毎日が退屈でしょう」とのお言葉があったが、私は少しも無聊に苦しむことはなかった。

それは若い時から室内・戸外を問わず、種類の趣味やスポーツに首を突込んでいたからと思う。それも高齢になると次第にその数も少なくなり、残ったものは俳句とテニスクラになってしまった。そのテニスもう身体が思うようにならず、専ら参観程度になったが、未練があつて籍だけは残している。籍のあるクラブは三つほどあるが、一番古くから加入しているのは松山老童テニスクラブである。このクラブは軟式庭球で昭和五十年十一月第一回の大会が行われたが、当時は三十人余であった。テニス熱が旺盛になるにつれ現在では二〇〇名（男子八〇名女子一二〇名）もの大世帯となっている。男子は六十才以上女子は三十八才以上の制限がある。次は電電OB軟式テニスクラブと地域体協のテニス部である。ただ籍を置いているだけで今春は老童クラブと電電クラブから喜寿のお祝品を頂戴して恐縮している。

俳句の方は電電の現職者とOBで組織している友佳里俳句会（電通・郵政分離直後結成現在まで継続）に所属して毎月の例会には必ず出席しているが、俳句のメッカの当地では句会がしばしば催されるので、これらにもつとめて参加している。

その他の行事参加としては、園芸講演会や

文化講演会に、また老人会の会合、旅行、およびテレビ「大河ドラマ」、「日本史探訪」のセミナー（毎年春秋二回研修旅行がある）等であるが、特に四国八十八か所のお遍路は五回終了、小豆島八十八札所二回と西国三十三札所の巡礼もすませたので、さらに御縁があれば坂東・秩父観音めぐりもして百観音の結願をしたいものと思っている。

愛媛県皇居奉仕団に参加して

濱 口 徳 幸（松山）

皇居への奉仕は例年春と秋に行われているようですが、今年度の愛媛県奉仕団は県下から六〇名参加（男三五名、女二五名六班編成）で、五月六日から九日まで奉仕をしました。（団長は今年から電電OBの大森勇氏）、この期間の奉仕には他に四団体（徳島、奈良、兵庫、福岡など二〇〇名）あり、総勢二六〇名でした。

奉仕場所は皇居と東宮御所で、作業は御苑の雑草、落ち葉の清掃でしたが、広い地域内のこととて徒歩に疲れを感じました。毎日宿舎を午前七時に出発し、参入前に靖国神社や明治神宮などの参拝があり、作業後に国会議事堂、放送局などの見学もあり、国際劇場での観劇もありました。この奉仕で一番感銘したことは、皇居内で天皇、皇后両陛下から『御苦労です』とのお言葉を賜わったことでした。東宮御所では皇太子および同妃殿下からも言葉がありました。私達が、かくも間近かに両陛下や両殿下の御姿に接することができたのはこの奉仕に参加したお蔭です。誠に恐ろしく感激の至りでした。代表者の発

声で両陛下の万歳を三唱し君が代の斉唱をしてお応えしましたが、私は日本人であることの喜びと誇り、そして有り難さを痛切に感じました。今の日本に兎角問題もありますが、三千年の歴史ある日本です。日本人として、皇室との繋がり的一端に、皇居の勤労奉仕をする人間としての善意を尊重したいと思いました。

探梅吟行句会

徳島眉秋俳句会

昭和五六・一・二一
於 大麻町観梅苑

吹き下ろす谷風寒の梅固し 青山 清澄
人声の遠近にして梅に佇つ 三島 花人
芽吹き初む木々や神園音もなく 安淵 久青
咲けるあり蕾むもありて梅寒き 森田 南斗
民宿もして梅園のあるじなる 森 光葉
ドイツ橋冬ざる谷に小さく見え 豊崎 雲庭
先人のドイツ文化や梅見頃 長尾 我人
老梅や鳥群がりて呼び合える 原 雅峰
日矢さしてせせらぎ眩し梅の花 広瀬 琴水
鳥の名は問わざり梅の香に酔いて 幸田 蝸牛
ドイツ橋友交今に椿咲く 日開 桃花
消えて行く昔の道や梅寒し 岡 まり子
寒梅に女心となる一ト日 吉田富士子
手に受けし梅一輪の匂いかな 土橋 如水
風に向く顔の冷たき梅見かな 長島 正雅

投稿規定

- 一 会員消息 四〇〇字以内
 - 二 短歌、俳句、川柳 五首又は五句以内
 - 三 随筆、随想 六〇〇字以内
- 原稿締切 八月一〇日
原稿の取扱についてはお任せねがいます。

編集後記

○五十六年度共済年金改善が本決まりになりました。経済再建を目指す政府方針のきびしい状況の中での決定であるだけに、ホッとしました。アップ分（四月分、五月分）の清算は、七月になる模様です。

○先輩の玉川邁さんが退かれ、未熟な私が後を継ぐことになりました。ご協力を心からお願ひ申し上げます。愛媛の事務局には、今年退職の高市沖見さんがきて下さいました。よろしく願ひいたします。

○はじめの会報編集ですので、不手際が目立つと思います。ご叱正をいただき、勉強してゆきたいと存じます。（渡部）

電友会四国連合会会報 第三五号

昭和五十六年七月一日発行

編集発行 電友会四国連合会

事務局

松山市一番町四丁目（千七九〇）

四国電気通信局内

電話（〇八九九）三六二〇二三

印刷 四国電話印刷株式会社